



朝食を食べたレストラン



朝食のバゲットサンドウィッチ



グリーンディスカバリー社



カヤッキングのガイド、ヤイさん

ラオス北部で 終日カヤッキング体験

○写真・文〓長谷英治（ラオス担当）

環境と観光を融合させるといふ考え方に基づいたエコツアーが今、注目されており、特にラオスでは欧米人を中心に人気が高まっております。八〇〇種類もの野鳥や珍しい動物が生息する恵まれた自然の国ラオスでは、自然豊かな環境や文化を保護しながら、持続可能な観光に特化するよう国を挙げて取り組んでいます。

エコツアーと言っても多くの種類があり、定義も国によって変わってきますが、今回は森林の間に流れる川とそこで暮らす人々の様子などを体感できるカヤッキングを体験してきました。

北部エコツアー拠点地のひとつ ルアンナムター

今回の拠点地であるルアンナムターは、中国やミャンマーと隣接するルアンナムター県の県庁所在地。小さな町ですが旧市街と新市街に分かれており、宿やツアー会社などは新市街に集中しています。中国と古くから交易がある影響からか漢字の看板もチラホラあり、首都やルアンパバーンとは異なる雰囲気があります。

ゲストハウスが主流のルアンナムターでは、ホテルに宿泊しても朝食がないところがほとんど。ホテルからレストランまで送迎してもらったら、まずは朝食を食べましょう。英語のメニューから好きなものを選びます。今回はカオ・チー・サイ・クアン（フランスパンのサンドイッチ）を頂きます。セーブ（おいしい）！朝食が終わったら、道路の向かいにある「グリーンディスカバリー」社へ。ここでエコツアーを案内して



男たちはどこへ行ったのでしょうか？



黒い衣裳をまとったランテン族の女性



ランテン族の村



川辺

もらえるガイドさんと合流します。今回のガイドさんは「ヤイ」さん。ちよつと照れ屋な三〇歳。よろしくお願いします！

それではワゴン車にカヤックを乗せていざ出発、ルアンナムターをひたすら南下します。十分程度進むと一度、車を止めてヤイさんが今日の昼食をピックアップしてくれます。我々はそのまま車で待機。ここからは右手にナムター川を見ながら川下にある村へ向かいます。

道が工事中のデコボコ道なので上下に揺れること十五分。カヤッキングのスタート地点「ナムトッド村」というランテン族の村に到着です。

ランテン族の小さな村に到着

ランテン族は一〇〇年以上前に中国南部より移住してきた少数民族です。川沿いを拠点に生活をしていて今でも独自の文化を守っています。例えば、女性は成人すると眉をそり落したり、漢字を書くことができません。

また、黒い装束にピンク色のベルト？の衣装がこれぞ山岳民族という雰囲気を出しています。思わずカメラを持ってシャッターを押したくなりますが、写真を撮られる事を嫌う村人も多いので、必ずガイドさんに一声かけてから写真を撮るようにしましょう。

「ナムトッド村」では約一六〇人のランテン族の方々が生活していますが、今日は、女性と子供達を十数人程度見かけるくらいでした。男性は仕事に出かけてるのでしょうか。

ヤイさん達がカヤックを車から降ろすと荷物を持って川辺へ移動します。いろいろな荷物が多いのでここ



ドライボックス



大自然のなかで用を足しました



緑豊かな風景はさすがいいです



いよいよカヤッキングのスタートです



カヤックからの眺め

では私も含め全員で荷物を運びます。川までは約三～五分程度ですが日差しも強く暑さ全開です。直に汗がにじみ出てきました。あゝ早く川で涼まなければ・・・。

カヤッキングのその前に

カヤックに乗り込む前に、貴重品などを入れる「ドライバック」の扱い方を学びます。きちんと水が入らないようにしっかりと締めないといけません。カメラやサイフは勿論、下半身がずぶ濡れになるので、小物なども全部入れてしまいましょう！ドライバッグを閉じたら、救命胴衣を装着して準備完了です。

カヤッキングスタート

カヤックは三人乗りですが、真ん中に荷物を置くので前後で二名乗りの形になります。カヤックはカヌーと違い両側で漕げるパドルなので、右側を漕いだら次は左側と交互に漕いでいきます。川の流れにも寄りますが、同じ強さで両方漕がないと曲がってしまいます。

しかし今回は、この方向調整の部分をガイドのヤイさんが後で行ってくれるので、私はただ、思うがままに漕ぐだけ。これなら初心者でも安心ですね。それではいざ出発！ ゆっくりとナムター川を南下します。不器用ながらも漕ぎ出すとほんのり涼しい風が吹いてきました。ふと見上げれば綺麗な青い空、川沿いには美しい森林の景色、もう言うことなしです。気持ちいい。

今日は乾季の三月なのでオフシーズン。又、平日ということもあり、人一人いない贅沢な景色。川のせせ



ゆっくり進みながら景色を楽しみました

らぎの音や鳥の鳴き声を堪能しながらゆったりと進みます。雨季はもっと水量が増えて波が立つそうです。上空には鷹もあらわれ優雅に空を舞っています。

私はカヤック体験は初めてですが、漕ぎ続けていると私も段々と慣れてきてスピートアップできるようになりました。しかし、せっかくの景色、ゆっくり進んだ方が楽しめるよとヤイさんに諭され、試しに手を止めてみると、川の流れだけでも少しずつ進んでいくのがわかります。きつともっとスピードや流れをコントロールできると楽しみも倍増するのでしょうか。

一時間程度進んだところで、小休止。ちよつとした岸にカヤックを止め、十分程度休みます。ちなみにエコツアーはほとんどトイレがないので、基本的に青空トイレ。誰にも見えない木陰はたくさんあるので、割り切って開放的になってみましょう。

スプラーツシュー!!

穏やかなナムター川でもたくさんの岩で狭まったり、ちよつとした段差がある部分が何度か出てきます。ここは水の流れに任せながら、しっかりとした進路確保が必要になります。ヤイさんの出番です。岩場では不用意にパドルを漕ぐと危ないので私は手前から漕ぐのをやめてパドルを水上に上げておきます（つまり余計なことをしません）。

ヤイさんはゴルフのパットのようにラインを読んで、しっかりと流れにカヤックを乗せます。いよいよ岩場へ「バッシューン」と波が揺れスプレッシュを被ると思わず「ウォー」と叫んでしまいます。これも楽しみの一つですね。それほど高くはしびきませんが、三回くらいスプラッシュが来ると下半身がびっしょり



ラオス国内の国立自然保護区

と濡れてしまいます。私はズブンの下に海パンをはいていましたが、最初から海パンだけにしていた方が良かったように思います。

ナムハー国立保護区

更にカヤックは南下します。しばらく進むと「ナムハー国立自然保護区」のエリアにぶつかります。

ところでラオスには国立自然保護区(NP)と呼ばれる二〇のエリアがあります。国土の約十四%を占めているこのエリア内では森林や野生生物や少数民族の暮らしなどが保護されているため、現在でも森林と共生する様々な生態を見ることができます。

二〇万二四〇〇ヘクタールもの大きさがあり北側は中国の国境に接しているナムハー国立保護区は、ラオス北部の代表的なエリアであり、乾季にはエリア内へトレッキングすることもできます。

今回カヤッキングをしているナムター川は一部、国立保護区の境界線を流れています。進行方向右側はナムハー国立自然保護区、左側は私有地となり、生い茂る緑の差は歴然！ 左手の景色を見ながら「最近木材を伐採して中国へ輸出する業者が増えてきているんだ」とヤイさんは言います。

十一時半。すっかり日が高くなり、お腹がすいてきました。岸に寄せてカヤックを降ります。今日はここでお昼ごはんのようです。まずはカヤックの荷物を全て取り出し、カヤックをひっくり返して洗います。そして次は森にたくさんあるバナナの木から大きな葉っぱを一枚拝借します。これをカヤックの裏側にひいてダイニングテーブルの完成！ この上に豚肉炒めや山菜サラダなどの食材を並べてお昼ごはんの準備完了。



ヤイさんの芸術作品



岸辺の村



食後は景色を楽しんだり水遊びをしたりできます



昼食の準備をするヤイさん



バナナの葉をお皿にした昼食

持参したウェットティッシュで手を拭いてから、「いただきます」。う、うまい。シンプルな食事ではありませんが、大自然の中で食べる昼食は味わいが増し、あつという間に完食してしまいました。

食後はしばらく岸でのんびり。小魚を探すよし、川で水遊びをするもよしです。ヤイさんは川の砂で仏塔を作ってくれました。芸術作品ですねと褒めると照れるヤイさん。

川と共に生活する村人たち

食後の休憩が終わったら、再度カヤックに乗り込み出発。ここから村まではあまり遠くないようです。もったいないのでゆっくりゆっくり進みます。左手に数棟の小屋が見えてきました。どうやら涼む為の休憩場所のようです。週末になるとルアンナムターからたくさん家族がやってきて賑わうそうです。小屋のはずれには子供達が飛び込んで遊ぶための作れた高台もあります。気持ち良さそうです。

そうこうしているうちに正面に人の気配。なんと子供達が魚とりをして楽しんでいました。こちらに気づくとじつとこちらを見つめてきます。サバイデーと手を振ると、サバイデーと笑顔で手を振り返してくれました。道具を持っていないようなので手掴みでの魚とりでしょうか。

カヤックからの景色

もうすぐ村到着。カヤックからの景色を満喫するため、カメラであつちこつとシャッターを押しました。雨



水流を利用して竹を運びます



カヤックを車に積んで帰り支度



カム族の村に到着です



出発地ルアンナムターへ戻る道

季はもつとすばらしいよと言われると雨季にも来て体験したくなります。

カム族の村に到着 再びルアンナムターへ

いよいよゴール地点のソプキシモニー村というカム族の村に到着しました。カム族はラオ族がラオスに来る前からこの地で生活していたと言われており、ラオスの少数民族の中で最も多い民族です。

村の岸にはドライバーさんが先回りして待っていてくれました。カヤックをおりて救命道具をはずし、ドライバックから荷物を取り出します。荷物の整理が終わったら、道具を車へ運びます。

村を出発したら帰りは川沿いを上流に戻っていきます。同じルートですが川からの景色とは全く違い、びつくりしてしまいます。途中で出発地のランテン族の村へ立ち寄ることも出来ます。ランテン族は竹で作った紙を作る技術を持っていて、自家製の竹紙ノートを買うことが出来ます。村にお邪魔させて頂いている御礼の意味をこめて二冊のノートを購入しました。村の立ち寄りも含めても五十分程度でルアンナムターに到着です。

ルアンナムターでのカヤッキングは、スポーツとして楽しむというより、カヤッキングを通じて大自然やそこで生活する人々の世界観に浸るという楽しみ方ができるエコツアーです。ぜひ、多くの方に体験してみてもらいたいと思います。

今日、この後に吞むビールも格別においしいこと間違いないの大変有意義な一日でした。